

将来のために生き命

大前 王 藩 久留米西

歯学部長 山内 和夫

入学生の皆さん、長年の努力が報いられたことを心からお祝いします。

皆さんは今、入学許可書を手にして何を考えているのでしょうか。果たして自分の望む学部や学科へ入学したのでしょうか。大して望んでもいいところへ、偏差値等の都合で入学してしまったのでしょうか。それとも、周囲がすすめるから何となく入学してしまったのでしょうか。

いずれにしても、皆さんは入学してしまった訳です。私は個人的にはそれでもいいと思っています。一方的に教えられることばかりの経験がほとんどであった皆さんが、自分の将来を考えるには、あまりにも社会が複雑になり過ぎているからです。

何十年か以前までは、大学は純粋に学問の場であり、そこに学ぶ学生達も学者ないし専門家の卵的存在として考えられていました。しかし、学術の著しい分化と進歩発展は、大学の学部学生に学者の卵を要求することが無理な時代となっていましたし、大学でやっと応用学の基礎や常識を学生に教えなければならぬ程に、学問が高度化していました。従って、かつては高度であったはずのものが、今では常識的な知識となり、大学は大衆化されざるを得なくなりました。

このような時代であってみれば、皆さんが大学に入ってから2年程までの間に、自分の将来や進路を少しの間でも探り、将来的に何をしたいのか、何をやめたいのか、何をやめたくないのか、何をやめなくてはならないのかなど、自分自身の将来を視野に入れながらお済ませください。しかし、このままでは、必ずしも自分の将来を見つけることができません。つまり、自分の将来を見つけるためには、自分自身の将来を見つける必要があります。つまり、自分の将来を見つけるためには、自分自身の将来を見つける必要があります。

考るとしてもやむを得ないでしょうし、必ずしも、それが手遅れだということにはなりません。しかし、大切な事は、受験勉強からの解放感にむしばまれないことです。今からの1、2年間こそ、皆さんの人生の中で自己を見つめ直す最良の機会であり時間なのです。何となく大学に出て、何となくテストをこなし、遊ぶ楽しさにほうけて、目的も曖昧なまま漫然と時を費やしてしまうことがないようにして下さい。この機会が有効に生がせるかどうかは、必ず皆さんの将来に大きく影響します。

入学したばかりの皆さんに水をさすようなことを言って、つくづく私自身の老化現象を思い知らされることになっていますが、大学は、やはり快適な場です。少なくとも社会の一般的な組織や高等学校までの学校などに比べると格段に自由で、人権が尊重される場もあります。それは、未知(数)の次の時代の芽が常にそこで育てられる可能性と事実を内包しているということで、世間が大学を容認し期待しているからです。皆さんは、保護されたこの場の中で、思いきり思考を飛ばせて下さい。又同時に大きく羽を伸ばせて下さい。この機会に感覚的にも頭脳的にも、肉体と精神の「ゆとり」を学習し、それを身につけて、やがてたくましく社会に羽ばたいでくれることを祈ってやみません。